

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来 成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用	感染症(PT)	出典	概要
205	2006/3/20	51011	財団法人 化学及血 清療法研 究所	乾燥まむしウマ抗毒素	まむしウ マ抗毒素	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			
206	2006/3/20	51012	財団法人 化学及血 清療法研 究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド ワイル病治療血清 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン	血清	ウマ血液	ニュージ ー ランド	製造工程	無	無	無			
207	2006/3/20	51013	財団法人 化学及血 清療法研 究所	乾燥はぶウマ抗毒素 乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ガスエソ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ジフテリア抗毒素 乾燥ボツリヌス抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	ペプシン	ブタ胃	アメリカ	製造工程	無	無	無			
208	2006/3/20	51014	財団法人 化学及血 清療法研 究所	ワイル病治療血清	肝臓	モルモット肝 臓		製造工程	無	無	無			
209	2006/3/20	51015	財団法人 化学及血 清療法研 究所	ワイル病治療血清	血液	モルモット血 液		製造工程	無	無	無			
210	2006/3/20	51016	財団法人 化学及血 清療法研 究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 破傷風トキソイド	ハートエ キス	クジラ心臓	捕鯨国:日 本	製造工程	無	無	無			
211	2006/3/20	51017	財団法人 化学及血 清療法研 究所	乾燥はぶウマ抗毒素	はぶ毒	ハブ毒素	日本	原材料	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
212	2006/3/20	51018	財団法人化学及血清療法研究所	乾燥まむしウマ抗毒素	まむし毒	マムシ毒素	日本	原材料	無	無	無			
213	2006/3/20	51019	財団法人化学及血清療法研究所	乾燥日本脳炎ワクチン①、③ 乾燥弱毒生麻しんワクチン② 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン④ 乾燥弱毒生風しんワクチン⑤ 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン⑥	乳糖	ウシ乳	ニュージーランド	①、③～⑥添加物 ②製造工程	無	無	無			
214	2006/3/20	51020	財団法人化学及血清療法研究所	乾燥日本脳炎ワクチン 日本脳炎ワクチン	脳	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
215	2006/3/22	51021	萬有製薬株式会社	肺炎球菌ワクチン	ウサギ脱繊維血液	ウサギ血液	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
216	2006/3/22	51022	萬有製薬株式会社	肺炎球菌ワクチン	ハートインフュージョン培地	ウシ心臓、ウシ骨格筋、ウシ脂肪細胞、ウシ骨髄、ウシ結合組織	米国、カナダ、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
217	2006/3/22	51023	萬有製薬株式会社	肺炎球菌ワクチン	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無			
218	2006/3/22	51024	萬有製薬株式会社	肺炎球菌ワクチン	リボヌクレアーゼ	ウシ脾臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
219	2006/3/22	51025	萬有製薬株式会社	肺炎球菌ワクチン	デオキシリボヌクレアーゼ	ウシ脾臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
220	2006/3/22	51026	萬有製薬株式会社	肺炎球菌ワクチン	トリプシン	ウシ脾臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
221	2006/3/22	51027	萬有製薬株式会社	肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌荚膜ポリサッカライド	肺炎球菌荚膜	米国	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
222	2006/3/22	51028	ファイザー株式会社	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタの腸	米国	有効成分	有	無	無	炭疽	ProMED 20050906-0060 ProMED 20050902-0050	ロシアのRostov地域で今年(2005年)3例目のブタ炭疽症例が発見された。このブタは炭疽ワクチン未接種であった。生物学的検査、顕微鏡検査、細菌学検査によって、炭疽菌感染と確定された。
223	2006/3/22	51029	田辺製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組み換え)	マウス骨髄腫由来細胞	マウス骨髄腫		製造工程	有	無	有	脳症	J Virol 2005; 79: 11858-11863	伝達性ミンク脳症(TME)HY株またはDY株神経外接種後の神経侵入におけるリンパ細網系組織の役割をハムスターを用いて調べた。腹腔内接種後、DY株は脾臓やリンパ節では検出されず、腹腔やリンパ節への接種または経口投与後は臨床症状は観察されなかったが、舌内接種後プリオン病を発症し、舌および舌を神経支配する脳幹神経核で検出された。しかし、脾臓やリンパ節では検出されなかった。一方、HY株はこれらのすべての接種経路により感染した。
												BSE	FDA News; P05-68, 2005年10月4日	2005年10月4日、FDAは、BSEから消費者をより一層守るため、追加の「狂牛病」セーフガードを提案した。生後30ヶ月以上のウシの脳および脊髄、検査を受けていない全年齢のウシの脳および脊髄、脳および脊髄が除去されていない検査されていないウシの全ての部位などを、使用することを禁止するよう動物飼料規制を改正することを提案している。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Am J Pathol 2005; 167: 1033-1042	ヒトCaco-2/TC7腸細胞を種々のプリオン株および感染した脳ホモジネートとともに培養した。BSE脳ホモジネートとともに培養すると、感染性ウシプリオンはエンドサイトーシスにより数分以内に腸細胞に取り込まれた。この取り込みは抗37 kDa/67 kDaラミニン受容体(LRP/LR)抗体の前処理により減少したことから、LRP/LRが感染性ウシプリオン受容体と同定された。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/	英国で、外科手術を介したvCJD伝播のリスクの可能性を低減させるための予防措置が拡大された。輸血を受けた約50名が追跡され、vCJDへの暴露の可能性が通知される予定である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005; 15(51)	英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。
												脳症	New Scientist Breaking News 2006年1月26日	正常なシカのプリオンを生成できるトランスジェニックマウスを作成し、マウスの脳に、慢性消耗病(CWD)に感染したシカの脳またはももの筋肉を注射したところ、12から18ヶ月後に脳症を発症した。自然界で感染した動物の肉を食べた動物が感染するかは不明である。
224	2006/3/22	51030	田辺製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組み換え)	ウシアポトランスフェリン	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	有	脳症	J Virol 2005; 79: 11858-11863	伝達性ミンク脳症(TME)HY株またはDY株神経外接種後の神経侵入におけるリンパ細網系組織の役割をハムスターを用いて調べた。腹腔内接種後、DY株は脾臓やリンパ節では検出されず、腹腔やリンパ節への接種または経口投与後は臨床症状は観察されなかったが、舌内接種後プリオン病を発症し、舌および舌を神経支配する脳幹神経核で検出された。しかし、脾臓やリンパ節では検出されなかった。一方、HY株はこれらのすべての接種経路により感染した。
												BSE	FDA News; P05-68, 2005年10月4日	2005年10月4日、FDAは、BSEから消費者をより一層守るため、追加の「狂牛病」セーフガードを提案した。生後30ヶ月以上のウシの脳および脊髄、検査を受けていない全年齢のウシの脳および脊髄、脳および脊髄が除去されていない検査されていないウシの全ての部位などを、使用することを禁止するよう動物飼料規制を改正することを提案している。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Am J Pathol 2005; 167: 1033-1042	ヒトCaco-2/TC7腸細胞を種々のプリオン株および感染した脳ホモジネートとともに培養した。BSE脳ホモジネートとともに培養すると、感染性ウシプリオンはエンドサイトーシスにより数分以内に腸細胞に取り込まれた。この取り込みは抗37 kDa/67 kDaラミニン受容体(LRP/LR)抗体の前処理により減少したことから、LRP/LRが感染性ウシプリオン受容体と同定された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/	英国で、外科手術を介したvCJD伝播のリスクの可能性を低減させるための予防措置が拡大された。輸血を受けた約50名が追跡され、vCJDへの暴露の可能性が通知される予定である。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005; 15(51)	英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。
												脳症	New Scientist Breaking News 2006年1月26日	正常なシカのプリオンを生成できるトランスジェニックマウスを作成し、マウスの脳に、慢性消耗病(CWD)に感染したシカの脳またはももの筋肉を注射したところ、12から18ヶ月後に脳症を発症した。自然界で感染した動物の肉を食べた動物が感染するかは不明である。
225	2006/3/22	51031	田辺製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組み換え)	ウシリボプロテイン	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	有	脳症	J Virol 2005; 79: 11858-11863	伝達性ミンク脳症(TME)HY株またはDY株神経外接種後の神経侵入におけるリンパ細網系組織の役割をハムスターを用いて調べた。腹腔内接種後、DY株は脾臓やリンパ節では検出されず、腹腔やリンパ節への接種または経口投与後は臨床症状は観察されなかったが、舌内接種後プリオン病を発症し、舌および舌を神経支配する脳幹神経核で検出された。しかし、脾臓やリンパ節では検出されなかった。一方、HY株はこれらのすべての接種経路により感染した。
												BSE	FDA News; P05-68, 2005年10月4日	2005年10月4日、FDAは、BSEから消費者をより一層守るため、追加の「狂牛病」セーフガードを提案した。生後30ヶ月以上のウシの脳および脊髄、検査を受けていない全年齢のウシの脳および脊髄、脳および脊髄が除去されていない検査されていないウシの全ての部位などを、使用することを禁止するよう動物飼料規制を改正することを提案している。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Am J Pathol 2005; 167: 1033-1042	ヒトCaco-2/TC7腸細胞を種々のプリオン株および感染した脳ホモジネートとともに培養した。BSE脳ホモジネートとともに培養すると、感染性ウシプリオンはエンドサイトーシスにより数分以内に腸細胞に取り込まれた。この取り込みは抗37 kDa/67 kDaラミニン受容体(LRP/LR)抗体の前処理により減少したことから、LRP/LRが感染性ウシプリオン受容体と同定された。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/	英国で、外科手術を介したvCJD伝播のリスクの可能性を低減させるための予防措置が拡大された。輸血を受けた約50名が追跡され、vCJDへの暴露の可能性が通知される予定である。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005; 15(51)	英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。
												脳症	New Scientist Breaking News 2006年1月26日	正常なシカのプリオンを生成できるトランスジェニックマウスを作成し、マウスの脳に、慢性消耗病(CWD)に感染したシカの脳またはももの筋肉を注射したところ、12から18ヶ月後に脳症を発症した。自然界で感染した動物の肉を食べた動物が感染するかは不明である。
226	2006/3/22	51032	田辺製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組み換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、カナダ、オーストラリア	製造工程	有	無	有	脳症	J Virol 2005; 79: 11858-11863	伝達性ミンク脳症(TME)HY株またはDY株神経外接種後の神経侵入におけるリンパ細網系組織の役割をハムスターを用いて調べた。腹腔内接種後、DY株は脾臓やリンパ節では検出されず、腹腔やリンパ節への接種または経口投与後は臨床症状は観察されなかったが、舌内接種後プリオン病を発症し、舌および舌を神経支配する脳幹神経核で検出された。しかし、脾臓やリンパ節では検出されなかった。一方、HY株はこれらのすべての接種経路により感染した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	FDA News; P05-68, 2005年10月4日	2005年10月4日、FDAは、BSEから消費者をより一層守るため、追加の「狂牛病」セーフガードを提案した。生後30ヶ月以上のウシの脳および脊髄、検査を受けていない全年齢のウシの脳および脊髄、脳および脊髄が除去されていない検査されていないウシの全ての部位などを、使用することを禁止するよう動物飼料規制を改正することを提案している。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Am J Pathol 2005; 167: 1033-1042	ヒトCaco-2/TC7腸細胞を種々のプリオン株および感染した脳ホモジネートとともに培養した。BSE脳ホモジネートとともに培養すると、感染性ウシプリオンはエンドサイトーシスにより数分以内に腸細胞に取り込まれた。この取り込みは抗37 kDa/67 kDaラミニン受容体(LRP/LR)抗体の前処理により減少したことから、LRP/LRが感染性ウシプリオン受容体と同定された。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/	英国で、外科手術を介したvCJD伝播のリスクの可能性を低減させるための予防措置が拡大された。輸血を受けた約50名が追跡され、vCJDへの暴露の可能性が通知される予定である。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005; 15(51)	英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。
												脳症	New Scientist Breaking News 2006年1月26日	正常なシカのプリオンを生成できるトランスジェニックマウスを作成し、マウスの脳に、慢性消耗病(CWD)に感染したシカの脳またはももの筋肉を注射したところ、12から18ヶ月後に脳症を発症した。自然界で感染した動物の肉を食べた動物が感染するかは不明である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
227	2006/3/22	51033	田辺製薬株式会社	インプリキシマブ(遺伝子組み換え)	ウシ蛋白加水分解物	ウシ脾臓、ウシ血液	米国	製造工程	有	無	有	脳症	J Virol 2005; 79: 11858-11863	伝達性ミンク脳症(TME)HY株またはDY株神経外接種後の神経侵入におけるリンパ細網系組織の役割をハムスターを用いて調べた。腹腔内接種後、DY株は脾臓やリンパ節では検出されず、腹腔やリンパ節への接種または経口投与後は臨床症状は観察されなかったが、舌内接種後プリオン病を発症し、舌および舌を神経支配する脳幹神経核で検出された。しかし、脾臓やリンパ節では検出されなかった。一方、HY株はこれらのすべての接種経路により感染した。
												BSE	FDA News; P05-68, 2005年10月4日	2005年10月4日、FDAは、BSEから消費者をより一層守るため、追加の「狂牛病」セーフガードを提案した。生後30ヶ月以上のウシの脳および脊髄、検査を受けていない全年齢のウシの脳および脊髄、脳および脊髄が除去されていない検査されていないウシの全ての部位などを、使用することを禁止するよう動物飼料規制を改正することを提案している。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Am J Pathol 2005; 167: 1033-1042	ヒトCaco-2/TC7腸細胞を種々のプリオン株および感染した脳ホモジネートとともに培養した。BSE脳ホモジネートとともに培養すると、感染性ウシプリオンはエンドサイトーシスにより数分以内に腸細胞に取り込まれた。この取り込みは抗37 kDa/67 kDaラミニン受容体(LRP/LR)抗体の前処理により減少したことから、LRP/LRが感染性ウシプリオン受容体と同定された。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/	英国で、外科手術を介したvCJD伝播のリスクの可能性を低減させるための予防措置が拡大された。輸血を受けた約50名が追跡され、vCJDへの暴露の可能性が通知される予定である。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005; 15(51)	英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												脳症	New Scientist Breaking News 2006年1月26日	正常なシカのプリオンを生成できるトランスジェニックマウスを作成し、マウスの脳に、慢性消耗病(CWD)に感染したシカの脳またはももの筋肉を注射したところ、12から18ヶ月後に脳症を発症した。自然界で感染した動物の肉を食べた動物が感染するかは不明である。
228	2006/3/22	51034	田辺製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組み換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	有	脳症	J Virol 2005; 79: 11858-11863	伝達性ミンク脳症(TME)HY株またはDY株神経外接種後の神経侵入におけるリンパ細網系組織の役割をハムスターを用いて調べた。腹腔内接種後、DY株は脾臓やリンパ節では検出されず、腹腔やリンパ節への接種または経口投与後は臨床症状は観察されなかったが、舌内接種後プリオン病を発症し、舌および舌を神経支配する脳幹神経核で検出された。しかし、脾臓やリンパ節では検出されなかった。一方、HY株はこれらのすべての接種経路により感染した。
												BSE	FDA News; P05-68, 2005年10月4日	2005年10月4日、FDAは、BSEから消費者をより一層守るため、追加の「狂牛病」セーフガードを提案した。生後30ヶ月以上のウシの脳および脊髄、検査を受けていない全年齢のウシの脳および脊髄、脳および脊髄が除去されていない検査されていないウシの全ての部位などを、使用することを禁止するよう動物飼料規制を改正することを提案している。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Am J Pathol 2005; 167: 1033-1042	ヒトCaco-2/TC7腸細胞を種々のプリオン株および感染した脳ホモジネートとともに培養した。BSE脳ホモジネートとともに培養すると、感染性ウシプリオンはエンドサイトーシスにより数分以内に腸細胞に取り込まれた。この取り込みは抗37 kDa/67 kDaラミニン受容体(LRP/LR)抗体の前処理により減少したことから、LRP/LRが感染性ウシプリオン受容体と同定された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/	英国で、外科手術を介したvCJD伝播のリスクの可能性を低減させるための予防措置が拡大された。輸血を受けた約50名が追跡され、vCJDへの暴露の可能性が通知される予定である。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005; 15(51)	英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。
												脳症	New Scientist Breaking News 2006年1月26日	正常なシカのプリオンを生成できるトランスジェニックマウスを作成し、マウスの脳に、慢性消耗病(CWD)に感染したシカの脳またはももの筋肉を注射したところ、12から18ヶ月後に脳症を発症した。自然界で感染した動物の肉を食べた動物が感染するかは不明である。
229	2006/3/22	51035	田辺製薬株式会社	インプリキシマブ(遺伝子組み換え)	ウシインスリン	ウシ脾臓	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	有	脳症	J Virol 2005; 79: 11858-11863	伝達性ミンク脳症(TME)HY株またはDY株神経外接種後の神経侵入におけるリンパ細網系組織の役割をハムスターを用いて調べた。腹腔内接種後、DY株は脾臓やリンパ節では検出されず、腹腔やリンパ節への接種または経口投与後は臨床症状は観察されなかったが、舌内接種後プリオン病を発症し、舌および舌を神経支配する脳幹神経核で検出された。しかし、脾臓やリンパ節では検出されなかった。一方、HY株はこれらのすべての接種経路により感染した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	FDA News; P05-68. 2005年10月4日	2005年10月4日、FDAは、BSEから消費者をより一層守るため、追加の「狂牛病」セーフガードを提案した。生後30ヶ月以上のウシの脳および脊髄、検査を受けていない全年齢のウシの脳および脊髄、脳および脊髄が除去されていない検査されていないウシの全ての部位などを、使用することを禁止するよう動物飼料規制を改正することを提案している。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Am J Pathol 2005; 167: 1033-1042	ヒトCaco-2/TC7腸細胞を種々のプリオン株および感染した脳ホモジネートとともに培養した。BSE脳ホモジネートとともに培養すると、感染性ウシプリオンはエンドサイトーシスにより数分以内に腸細胞に取り込まれた。この取り込みは抗37 kDa/67 kDaラミニン受容体(LRP/LR)抗体の前処理により減少したことから、LRP/LRが感染性ウシプリオン受容体と同定された。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/	英国で、外科手術を介したvCJD伝播のリスクの可能性を低減させるための予防措置が拡大された。輸血を受けた約50名が追跡され、vCJDへの暴露の可能性が通知される予定である。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005; 15(51)	英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。
												脳症	New Scientist Breaking News 2006年1月26日	正常なシカのプリオンを生成できるトランスジェニックマウスを作成し、マウスの脳に、慢性消耗病(CWD)に感染したシカの脳またはももの筋肉を注射したところ、12から18ヶ月後に脳症を発症した。自然界で感染した動物の肉を食べた動物が感染するかは不明である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
230	2006/3/22	51036	田辺製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組み換え)	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	マウス脾臓細胞と骨髄腫細胞を融合した細胞にヒト遺伝子を導入した細胞株	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	有効成分	有	無	有	脳症	J Virol 2005; 79: 11858-11863	伝達性ミンク脳症(TME)HY株またはDY株神経外接種後の神経侵入におけるリンパ細網系組織の役割をハムスターを用いて調べた。腹腔内接種後、DY株は脾臓やリンパ節では検出されず、腹腔やリンパ節への接種または経口投与後は臨床症状は観察されなかったが、舌内接種後プリオン病を発症し、舌および舌を神経支配する脳幹神経核で検出された。しかし、脾臓やリンパ節では検出されなかった。一方、HY株はこれらのすべての接種経路により感染した。
												BSE	FDA News; P05-68, 2005年10月4日	2005年10月4日、FDAは、BSEから消費者をより一層守るため、追加の「狂牛病」セーフガードを提案した。生後30ヶ月以上のウシの脳および脊髄、検査を受けていない全年齢のウシの脳および脊髄、脳および脊髄が除去されていない検査されていないウシの全ての部位などを、使用することを禁止するよう動物飼料規制を改正することを提案している。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Am J Pathol 2005; 167: 1033-1042	ヒトCaco-2/TC7腸細胞を種々のプリオン株および感染した脳ホモジネートとともに培養した。BSE脳ホモジネートとともに培養すると、感染性ウシプリオンはエンドサイトーシスにより数分以内に腸細胞に取り込まれた。この取り込みは抗37 kDa/67 kDaラミニン受容体(LRP/LR)抗体の前処理により減少したことから、LRP/LRが感染性ウシプリオン受容体と同定された。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/	英国で、外科手術を介したvCJD伝播のリスクの可能性を低減させるための予防措置が拡大された。輸血を受けた約50名が追跡され、vCJDへの暴露の可能性が通知される予定である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PI)	出典	概要
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005; 15(51)	英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。
												脳症	New Scientist Breaking News 2006年1月26日	正常なシカのプリオンを生成できるトランスジェニックマウスを作成し、マウスの脳に、慢性消耗病(CWD)に感染したシカの脳またはももの筋肉を注射したところ、12から18ヶ月後に脳症を発症した。自然界で感染した動物の肉を食べた動物が感染するかは不明である。
231	2006/3/23	51037	持田製薬株式会社	インターフェロンアルファ(BALL-1)	インターフェロンアルファ(BALL-1)	ヒトリンパ芽球細胞	日本	有効成分	無	無	無			
232	2006/3/23	51038	持田製薬株式会社	インターフェロンアルファ(BALL-1)	ウサギ抗血清	ウサギ血液	米国	製造工程	無	無	無			
233	2006/3/23	51039	持田製薬株式会社	インターフェロンアルファ(BALL-1)	ふ化鶏卵で増殖させたセンダイウイルス	ふ化鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
234	2006/3/23	51040	持田製薬株式会社	インターフェロンアルファ(BALL-1)	マウスハイブリドーマ由来モノクローナル抗体	マウス脾臓	英国	製造工程	無	無	無			
235	2006/3/23	51041	持田製薬株式会社	インターフェロンアルファ(BALL-1)	ハムスターの皮下で増殖させたヒトリンパ芽球細胞	ハムスター	日本	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
236	2006/3/23	51042	持田製薬株式会社	インターフェロンアルファ(BALL-1)	ウシ胎仔血清	ウシ胎仔血液	オーストラリア	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Pro MED 20060218-0030	クロアチア政府は国内初となるBSE症例を確認したと明らかにした。確定診断のため、ウシ(5歳)の脳検体が英国の研究所に送られた。
237	2006/3/23	51043	持田製薬株式会社	日本薬局方トロンピン	トロンピン	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Pro MED 20060218-0030	クロアチア政府は国内初となるBSE症例を確認したと明らかにした。確定診断のため、ウシ(5歳)の脳検体が英国の研究所に送られた。
238	2006/3/23	51044	持田製薬株式会社	日本薬局方トロンピン	トロンボプラスチン	ウシ肺	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Pro MED 20060218-0030	クロアチア政府は国内初となるBSE症例を確認したと明らかにした。確定診断のため、ウシ(5歳)の脳検体が英国の研究所に送られた。
239	2006/3/23	51045	持田製薬株式会社	硫酸フラジオマイシン・結晶トリプシン① インターフェロン ベータ②	トリプシン	ウシ臍臓	ニュージーランド	①有効成分 ②製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Pro MED 20060218-0030	クロアチア政府は国内初となるBSE症例を確認したと明らかにした。確定診断のため、ウシ(5歳)の脳検体が英国の研究所に送られた。
240	2006/3/23	51046	持田製薬株式会社	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	厚生労働省 平成17年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から帰国した男性会社員(30歳代)が、米国で流行中のウエストナイル熱と診断されたと発表した。日本で初のWNV感染例である。この患者は米国で感染した可能性が高い。
												ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1294-1296	2004年米国で、WNV性脳炎発症8日後の65歳患者から採取した尿検体からWNV RNAが検出された。しかし、その後の尿検体からは検出されなかった。血液中の中和抗体が尿へのWNV排泄を阻害しているのかもしれない。今後WNV感染患者の尿検体検査時期を検討する必要がある。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												変異型クローンフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイビー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイビーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
												トリインフルエンザ	CDC 2005年11月7日 http://www.cdc.gov/flu/avian/outbreaks/asia.htm	WHO鳥インフルエンザH5N1型の更新情報。2003年～05年のアジア、ヨーロッパにおけるH5N1型鳥インフルエンザ感染の動物およびヒトでの進展状況。動物では家禽、渡り鳥、ブタ、ネコ科動物での感染が確認されている。
												トリインフルエンザ	厚生労働省 平成18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html	平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。
												トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月19日 http://www.who.int/csr/don/2006_01_19/en/index.html	中国衛生省はH5N1型トリインフルエンザウイルスによるヒト感染例をさらに1例確定した。この患者は四川省在住の35歳女性で、家禽選別者として働いていたが、発症9日目に死亡した。この症例は中国における9例目の確定診断例で、そのうち6例が死亡している。
												細菌感染	第75回日本感染症学会西日本地方総会 2005年11月17-18日	50年ほど前に人工気胸術を受けた後、慢性被包化膿胸となり、咳、かつ痰が続いていた77歳女性が、発熱および病状の悪化のため緊急入院した。かつ痰検査を行ったところ、抗酸菌が検出され、分離菌はMycobacterium mageritenseと同定された。本症例は日本におけるヒトの本菌感染症の第一例目である。